

オープンサイエンスモニタリングと CiNii Research機関向けダッシュボード

西岡 千文（国立情報学研究所）

NIIオープンフォーラム2025
「OAポリシー履行支援のための新システム」

2025年6月17日（火） 14:30-16:00



Outline

1. オープンサイエンスモニタリングとは？
2. NIIのオープンサイエンスモニタリングに関する取り組み
3. CiNii Research機関向けダッシュボード
ー機関でのオープンサイエンスモニタリングの実現ー

Outline

1. オープンサイエンスモニタリングとは？
2. NIIのオープンサイエンスモニタリングに関する取り組み
3. CiNii Research機関向けダッシュボード
ー機関でのオープンサイエンスモニタリングの実現ー

オープンサイエンスモニタリング (OSM)

UNESCOオープンサイエンス勧告「加盟国は定量的及び定性的な手法を組み合わせて、オープンサイエンスに関連する政策及びメカニズムをモニタリングする必要がある」

米川和志. E2585 - ユネスコ「オープンサイエンスに関する勧告」. カレントアウェアネスE. No. 433, 2022.

UNESCO Recommendation on Open Science. UNESCO, 2021. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000379949.locale=en>

オープンサイエンスモニタリング (OSM) オープンサイエンスの原則と実践に関連する活動を観測・評価するプロセス

Q1. オープンサイエンスモニタリングは何をすること？

A1. オープンサイエンスの進捗を観測することです。例えば、

- 自分の大学の研究者の論文は何%オープンアクセスになっている？
- どのような方法でオープンアクセスになっている？
- 研究データはどれだけ公開されている？前年と比べて減っている？増えている？

といったことを観測します。

オープンサイエンスモニタリング (OSM)

Q2. オープンサイエンスモニタリングを行うとどのようなよいことがある？

A2. 例えば、以下のようなよいことがあります。

- **現在地の理解と的確な方策の立案**

オープンサイエンスの進捗状況をデータで把握することで、「どこに課題があり、何が成功しているか」を客観的に分析できます。この分析に基づき、より効果的な次の一手（方策）を立案することができます。

＜参考＞ GRIOS (Global Research Initiative on Open Science) “Towards evidence-based Open Science policies” (<https://www.grios.org/>)

- **効果的なインセンティブの設計**

得られた客観的なデータは、研究者がオープンサイエンスを実践するためのインセンティブ（動機付け）を設計する上で、根拠となります。

＜参考＞ 「研究評価の改革に関する合意」（2022年7月）では、研究評価基準の原則として、「オープンサイエンスの実践」が挙げられている。

オープンサイエンスモニタリングはオープンサイエンスのさらなる進展に貢献

Outline

1. オープンサイエンスモニタリングとその動向
- 2. NIIのオープンサイエンスモニタリングに関する取り組み概要**
3. CiNii Research機関向けダッシュボード
ー機関でのオープンサイエンスモニタリングの実現ー

NIIのOSMに関する取り組み概要

研究機関 向け

CiNii Research 機関向けダッシュボード

日本の学術論文等を網羅的にカバーするCiNii Researchナレッジグラフに基づき、研究機関のオープンサイエンスを可視化



政府等向け

Japan Open Science Monitor

OSMを先導するFrench Open Science Monitorに沿ってOAに関する指標を実装し、諸外国と比較可能な指標を提供



General Scientific fields Publishers Open repositories

What are the opening trends 開発中 (未公開)

The **open repositories** are open access platforms on which scientific publications are deposited, which can be consulted by anyone. They are most often powered by author deposit, but in some cases may be powered by the journal publishers themselves. Open archives perform different functions: they make articles published in subscription journals available in open access, they ensure the permanent preservation of

NIIのOSMに関する取り組み概要

研究機関 向け

CiNii Research 機関向けダッシュボード

日本の学術論文等を網羅的にカバーするCiNii Researchナレッジグラフに基づき、研究機関のオープンサイエンスを可視化



政府等向け

Japan Open Science Monitor

OSMを先導するFrench Open Science Monitorに沿ってOAに関する指標を実装し、諸外国と比較可能な指標を提供



General Scientific fields Publishers Open repositories

What are the opening trends 開発中 (未公開)

The **open repositories** are open access platforms on which scientific publications are deposited, which can be consulted by anyone. They are most often powered by author deposit, but in some cases may be powered by the journal publishers themselves. Open archives perform different functions: they make articles published in subscription journals available in open access, they ensure the permanent preservation of

Outline

1. オープンサイエンスモニタリングとは？
2. NIIのオープンサイエンスモニタリングに関する取り組み
3. **CiNii Research機関向けダッシュボード**
—機関でのオープンサイエンスモニタリングの実現—

CiNii Research機関向けダッシュボード

CiNii Research (CiR) 機関向けダッシュボード

高品質かつ日本の学術論文、研究データ、プロジェクト等を網羅的にカバーしているCiNii Researchナレッジグラフに基づき、研究機関の構成員が行う研究活動や研究成果物、それらの影響力に関するデータを可視化することで、以下に貢献する。

- **オープンサイエンスの推進** 想定利用者：図書館職員等
 - 各機関の研究成果物並びにそれらのオープン化の現状の把握を可能にすることで、論文・研究データ等の研究成果物のオープン化の戦略策定（機関内の体制、ポリシー整備）や効率化を支援する
- **研究力分析支援** 想定利用者：リサーチ・アドミニストレータ等
 - 研究力活性化に向けた現状分析、エビデンスに基づいた戦略策定を可能とする
 - 海外や商用のダッシュボードとは異なり日本の研究成果物を広くカバーすることで、多様性を考慮した研究力分析を支援する

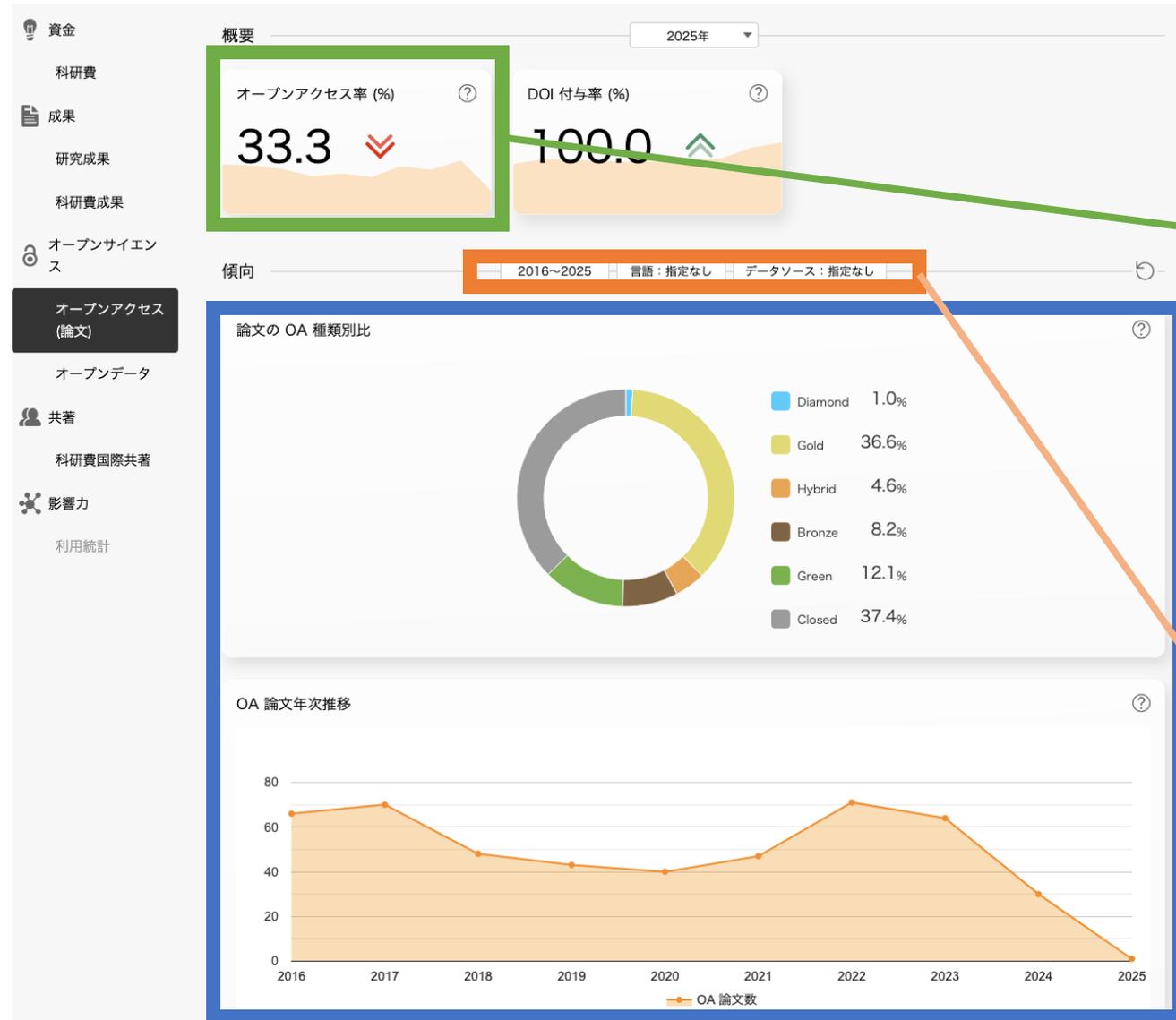
提供指標

研究サイクル
全体をカバー

カテゴリ	サブカテゴリ	指標
資金	科研費	【概要】 科研費資金獲得額, 科研費参加研究者数
		【傾向】 科研費資金獲得額年次推移, 科研費課題参加研究者数TOP20
		【リスト】 科研費採択課題
成果	研究成果	【概要】 論文数, 研究データ数, 本の数
		【傾向】 研究成果物の種類別比, 研究成果物の種類別年次推移
		【リスト】 新着成果物
	科研費成果	【概要】 論文数, 研究データ数, 本の数
		【傾向】 研究成果物の種類別比, 研究成果物の種類別年次推移
		【リスト】 新着成果物
オープンサイエンス	オープンアクセス	【概要】 オープンアクセス率, DOI付与率
		【傾向】 OA成果物のOA種類別比, OA成果物年次別推移
	オープンデータ	【概要】 オープンアクセス率, DOI付与率
		【傾向】 DOI付与率年次推移
共著	科研費国際共著	【概要】 科研費国際共著率
		【傾向】 科研費国際共著者分布
影響力	利用統計	【概要】 論文総DL数, 研究データ総DL数, 本の総DL数
		【傾向】 論文総DL数年次別推移
		【リスト】 DL数が多い成果物

現在、試用版にて
提供

インタフェース



オープンアクセス（論文）の指標ページ

① 重要な指標の現在の値を表示

② ①についてさらに詳細な傾向を表示

③ 絞り込み機能によりニーズに応じた分析を実現

- データソースとして「KAKEN」を選択 → 科研費成果のOA方法の分布
- 「年」と「年度」による絞り込み

